

第9章 河川管理

9 - 1 管理区間

手取川は幹川流路延長が72.0 kmの一級河川であり、手取川本川の河口より17.3 km上流の白山合口堰堤までの直轄河川改修区間、上流では手取川ダム区間20.0 kmが直轄管理区間である。また、約34 km上流の石川郡吉野谷村木滑地先から、牛首川流域と尾添川流域に大別され、これより上流が直轄砂防区域である。

それ以外の区間に関しては石川県が管理している。

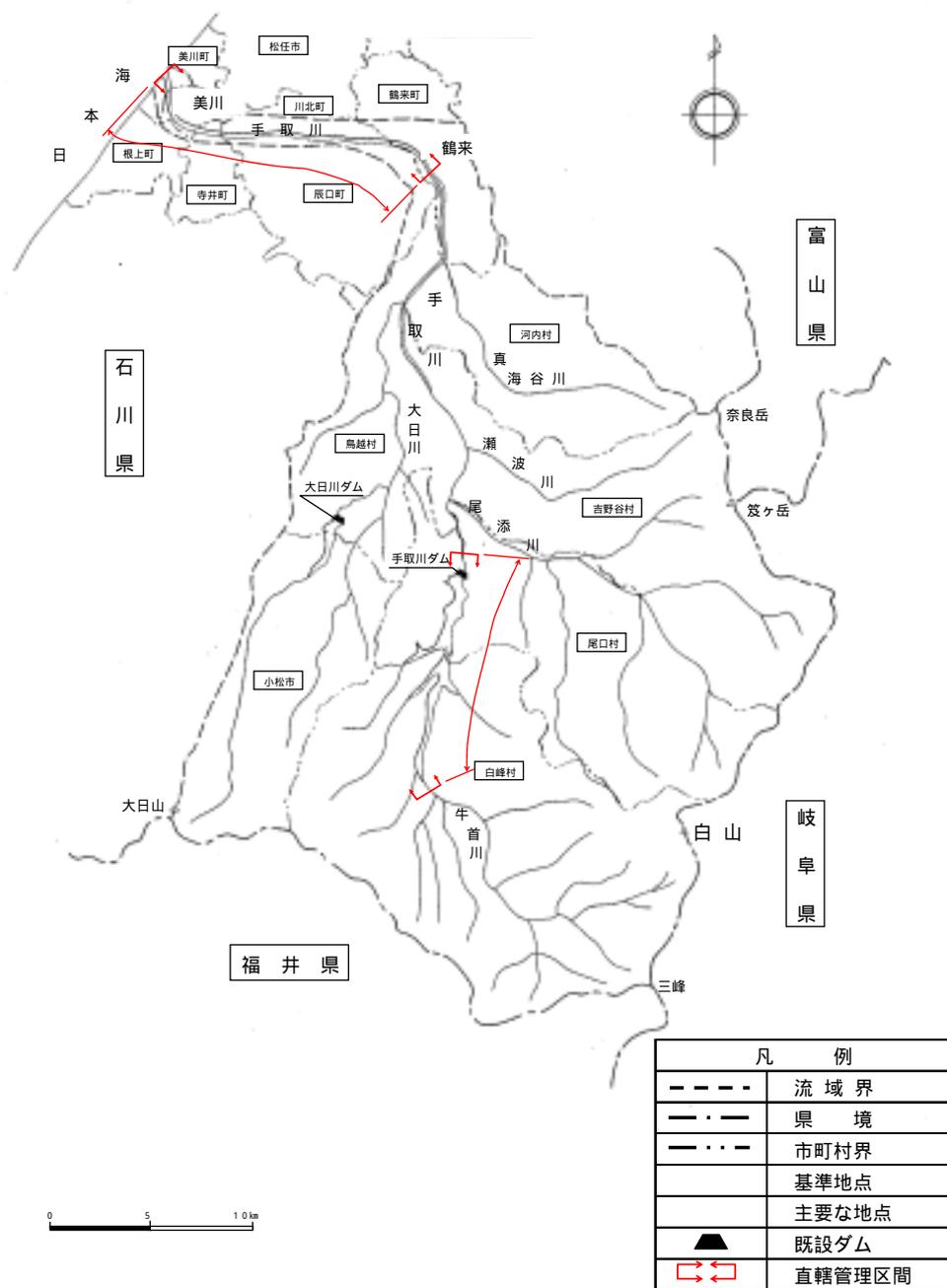


図9 - 1 手取川流域概要図

9 - 2 河川管理施設

手取川は、昭和9年7月11日に起こった大水害の後、早期に復旧が行われた。この中でも直轄管理となった区間は、破堤箇所の復旧と旧堤の補強を逐次進めるとともに、昭和9年の大洪水規模の流下能力を確保すべく、災害復旧工事を含めた河川改修が急速に行われたこともあり、現在、堤防整備率は約94.8%となっている。

また、堤防、護岸を除く主な河川管理施設は、ダム1箇所（手取川ダム）、樋門樋管4箇所、水門1箇所の計5箇所ある。これらの河川管理施設の状況を把握し、適正な処置を講じるため、河川を常によく巡視するとともに、利水者や沿川自治体と合同で出水期前や臨時、定期的な点検を行っている。

表9 - 2 直轄管理区間堤防整備状況

直轄管理 区間延長	施行令 2条7号 指定区間	堤防延長 [km]					合 計
		定規断面 堤 防	暫 定 HWL以上	暫 暫 定 HWL以下	未 施 工 区 間	不 必 要 区 間	
17.3	0.0	30.6	7.7	0.2	0.0	1.9	40.4
比 率 [%]		75.7	19.1	0.5	0.0	4.7	100.0

出典：河川便覧2002（国土開発調査会）

表9 - 3 直轄管理区間の主要な河川管理施設整備状況

堰	床止め	排水機場	樋門樋管	陸閘門	水 門	合 計
0	0	0	4	0	1	5

出典：河川現況台帳（平成14年3月現在）



手取川ダム
（石川郡尾口村）



美川水門
（石川郡美川町）

表9 - 4 排水樋管等施設一覧（直轄管理区間）

排水樋管等施設一覧（直轄管理区間）

	河川名	施設名	管理施設	位置 (km+m)	備考
1	手取川	美川水門		右岸 0.0-130	
2	手取川	美川樋管		右岸 0.0+120	
3	手取川	安産川排水機場		右岸 0.0- 50	
4	手取川	安産川樋管		右岸 0.0- 10	
5	手取川	湊樋管		左岸 0.6	
6	手取川	粟生樋管		左岸 4.2	
7	手取川	山田第二樋管		左岸 8.2	
8	手取川	明島樋管		右岸 12.2	
9	手取川	宮竹用水逆サイホン		右岸 13.6	
10	手取川	七ヶ用水余水吐樋管		右岸 14.0	

9 - 4 水防体制

手取川本川において、洪水による災害が起こりうる可能性があると考えられたときには、水防警報を発令し、水防団や近隣町村の関係機関と協力して洪水被害の軽減に努めるよう体制を組んでいる。

また、手取川は、平成4年に洪水予報河川に指定されており、金沢气象台と共同で洪水予報・警報の発表を行い、周辺住民への適切な情報提供を実施している。

表9 - 5 手取川水防対象観測所

【水防対象観測所】				
鶴来観測所〔石川郡鶴来町水戸町〕				
堤防高	指定水位	危険水位	警戒水位	平常水位
9.40m	0.90m	1.40m	3.00m	-2.09m

そのほか、周辺住民の洪水に対する知識・意識を高めることを目的として、平成6年には「もし、手取川が氾濫したら・・・」と題した手取川洪水氾濫危険区域図、平成14年には手取川浸水想定区域図を公表し、自分の住んでいる地域の洪水氾濫による浸水の可能性と浸水の程度について情報提供を行っている。

今後、手取川では、沿川の自治体と共同で洪水ハザードマップを作成していき順次公表できるよう努めていく。

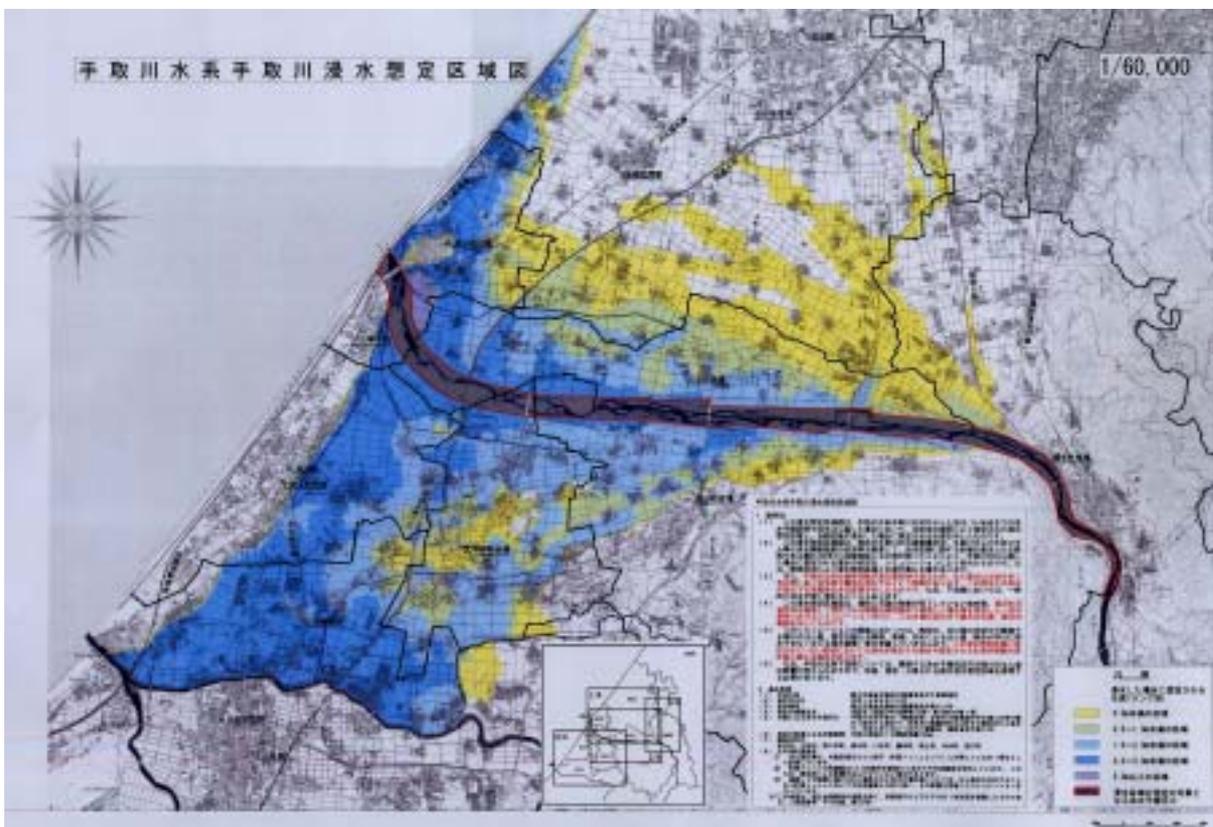


図9 - 3 手取川想定浸水区域図（平成14年8月30日公表）

9 - 5 地域との連携

手取川は、全国的に見ても水質がきれいな河川の上に位置している。また、周辺住民の河川環境に対する意識が強いことから、住民と一体となったイベントを実施している。

沿川の町村及び部落において、昭和9年の洪水を機会にして、組織的な活動として分担区域を指定して、堤防の除草が行われてきた。また、春秋2回（春は梅雨時前、秋は収穫後）石集めし、手取川出水の非常時にじゃ籠に入れる玉石を川原で集めて堤防所定の場所に置くという“タメ石”が行われ堤防が守られてきた。



堤防の除草作業状況

出典：川北村村史

現在では、河川愛護美化活動の一環として行われる「手取川クリーン大作戦」には毎年、周辺地域の加賀平野青年協議会や近隣の小中学校等から多数の参加者が集まり、河川敷やその周辺の清掃等を実施している。



「手取川クリーン大作戦」

また、流域沿川市町村の小中学校との協力により毎年、多くの参加者のもと簡易水質調査（水生生物調査）を実施し、参加者自らの手で、自分たちの手取川がどうなっているのか見てもらうことにより河川愛護の精神が養われている。



「水生生物調査」

9 - 6 河川管理の今後の課題

(1) 治水上の課題

河道の管理

手取川は、急流河川であり出水時の侵食・洗掘の発生状況が現在のところ十分に解明されていないため、どこで侵食・洗掘が発生し、甚大な被害が生じるのか分からないのが現状である。特に洪水時のエネルギーが極めて大きく短時間で出水することから、洪水時の洗掘や河岸侵食による堤防等の機能低下防止するための維持管理強化し、ダム、樋門樋管等の河川管理施設の機能や操作性、河川利用上の安全性等の点検を計画的に実施し、必要に応じて適切な改善措置を図る。

また、河道内の樹木及び堆積土砂については、利水、河川環境に配慮しつつ、洪水の安全な流下を図るため適正に管理する。

河川管理体制の高度・効率化

出水時や平常時における河川の状況把握や情報提供の迅速化を図るため、情報通信技術等(光ファイバー等) を活用した河川管理体制の高度化・効率化を目指す。

(2) 河川利用上の課題

手取川河口部周辺を中心として、河川内にプレジャーボート等が多く係留されており、これらの不法係留船は、洪水時には流水の妨げとなったり、流出して河川管理施設等を損傷させる恐れがある。

秩序ある河川利用のため、沿川地域の関係機関と協力して船舶の不法係留に対処する等、適正な河川利用を図る。